物集女公民館建設費など補正

第二回定例市議会

補正額は七千二百六十三万円 ═一般会計═

第二回定例市議会が、六月十二日から二十六日までの会期で、開かれました。

この議会で、昭和四十八年度一般会計補正予算第一号と公営企業会計水道事業補正予算第一号、昭和四十七年度公営企業会計水道事業の決算などが、それぞれ可決、認定されました。

一般会計の補正では、物集女公民館の建設費と新しく保育所に障害児保育を実施する経費を組んでいます。

補正予算のうちわけは、つぎのとおりです。

〈一般会計〉

〔補正第一号〕補正額は、七千三百六十三万円で、予算規模は十八億四千二百六十三万円となりました。歳出のおもなものは▽教育費―物集女公民館の建設費五千四百九十三万円、第四向陽小学校のプール建設の追加額二百十四万円など、あわせて五千九百六十四万円、▽土木費―物集女町中海道地内の市道第一二〇号線道路拡幅用地買収費五百十八万円などあわせて六百十九万円、▽民生費―新しく建設が予定されている第六保育所の設計費二百万円、障害児保育の介助者賃金など、あわせて五百三十万円などです。

これら歳出をまかなう歳入では寄附金三千九百二十万円、市債千六百万円、繰越金千百三十万円など、総額七千三百六十三万円で充当します。

〈公営企業会計水道事業〉

〔補正第一号〕資本的支出の建設改良費に二千七百六十九万円を追加、これにより、予算規模は五千五百九十九万円となり、また資本的支出では、七千六百五十二万円となりました。

うちわけは、取水井・導水施設の工事費千九百六十八万円、取水井用期買収費七百二万円など、二千七百六十九万円です。

（第七拡張の本体の第三浄水場）

第七次拡張事業が完了

―昭和47年度水道事業決算―

ここ数年間の人口の増とともに日常生活の水道需要は、めまぐるしいほどふえています。昭和47年度では、給水件数（年度末）は、12,068件、1日平均12,775立方メートルとなりました。

昭和47年度は、第7次拡張事業の最終年度にあたり、坂水井一最、配水管工事、第3浄水場ろか池自動装置一式の設置などを進め、終えました。

決算額は、収益的収入1億6,169万円、同支出1億9,303万円、資本的収入4,796万円、同支出4,107万円となり、赤字決算となりました。

昭和43年度から47年度までの5か年継続事業として、目標年次昭和55年、給水人口6万人、1人1日最大給水量を500リットルを見込んで、1日最大配水量を3万立方メートルとする第7次拡張事業は、昭和47年度で完了しました。

総事業費は、7億5,496万円、その財源は、企業債6億2,000万円、自己資金1億3,496円です。

拡張事業の完成により、資本費が多額となって、料金原価を引上げることになり、これを抑制するため、昭和43年度から新規加入金制度を採用し、自己資金の充当に努め、借入額を1億円減少させました。

経営面では、年度内に給水件数は540件増加、1人1日平均給水量で前年度より30リットルの増と順調に伸び、給水収益は、前年度と比べて14.9パーセントの増1億2,895万円、事業収益あわせて1億6,169万円となりました。

しかし、人件費で4,747万円、減価償却費3,747万円、企業債利息5,006万円、あわせて1億3,500万円となり事業収益に対して、83.5パーセントを占めることとなり、このため本年度収支は、前年度赤字を上回る3,139万円となりました。

民生委員・行政相談員

青山憲三氏が逝去

勲六等瑞宝章を贈与

永年、民生委員・行政相談員として、ご活躍をされておりました青山憲三氏（六十一歳・寺戸町）が、さる五月十八日逝去されました。

故青山氏は、昭和二十八年十二月一日に向日町民生委員児童委員に就任してしくなられるまで十九年五か月、また昭和三十七年四月一日に行政相談員に就任し十一年一か月つとめられるなど、住民福祉につくされました。ご生前のご努力を感謝し、ごめい福をお祈り申しあげます。

なお、功労をたたえて「勲六等瑞宝章」が贈られました。

（熱心にみいるお年寄り）

熱心に傍聴

森本老人クの人たち

市政を勉強しよう、と森本老人クラブの30人余が、第2回定例市議会のもようを傍聴しました。

議会の傍聴席は、お年寄りの人たちで満席、議場のやりとりを熱心に聞き入ったり、またメモを片手に鉛筆を走らせている人たちもいました。

森本老人クラブのお年寄りたちは、社会見学の行事の一つとして行政のしくみを見学しにきたものです。

物集女公民館を建設

完成は12月中ごろ

物集女公民館（仮称）の起工式が、7月17日午前10時から、物集女事務所跡で行なわれました。

式は、中山市長はじめ議会関係者ら30名余りが出席し、工事の安全を祈願しました。式後、中山市長は、「物集女町は、緑の竹ヤブを残し、歴史的にも意義のある町です。公民館の建設を機に、自治意識の連帯感と信頼感にもとづいた、新しいふるさとづくりの拠点として、公民館を利用されたい。」とあいさつしました。

この公民館は、建設工事費4,590万円で建設、工事内容は、鉄筋コンクリート造り2階建て、533.92平方メートル、1階は館長室、和室、資料展示室、小会議室など、2階は大会議室、講座室などを備えます。また、工事の完成は、12月中ごろの予定です。

（くわ入れをする中山市長）

教育施設の整備進む

向陽小学校を改築

こどもたちの学力向上と豊かな人間性を育てるには、よい教育環境施設が必要です。

市では、これに対処し、向陽小学校の校舎改築工事に取り組んでいます。向陽小学校の改築工事は木造平屋建て校舎が老朽化したのに伴って、鉄筋コンクリート造り三階建てに改築しています。

改築工事費は、七千八百七十万円で工事内容は、一階に理科室、普通教室、保健室など、二階に放送室、校長室、職員室など、三階に普通教室、普通教室二つの校舎改築のほかに、渡り廊下の新築工事児童昇降口を普通教室に改装する工事を進めています。

工事の完成は、来年の三月下旬ごろの予定です。

また、第三向陽小学校に屋内運動場を六千万円で建設します。

工事の内容は、鉄筋コンクリート造り（一部二階建て）延べ面積九百十・一平方メートル、一階に競技場、器具庫、更衣室、舞台など、二階に卓球場を備えています。

この工事の完成は、来年の三月上旬ごろの予定です。

市では、勉強のしやすい学校づくりを目標に、古くなった校舎はほとんどとりました。

鉄筋に、また体育設備の整備に取り組み、教育施設の充実を進めています。

（改築が進む向陽小）

家庭の火の元は要注意

―ことし上半期の火災・救急統計―

火の元の点検忘れずに

市の昭和四十八年上半期（一～六月）の火災・救急統計が、この上半期にかかわらず、前年中に起きた火災・救急が上回った原因は、都市化の波をうけた過密化器具の不良よりも取扱い上の不注意など、火の元の慣れによる注意力の散漫など分かれます。

消防本部では、火の元はつねに注意し、外出するときや寝るときは、火の元の点検は忘れずに、と呼びかけています。

夏の火の用心
火の元は十分注意を

市公共下水道計画（案）

来年度に事業予定

桂川右岸流域に関連した向日市公共下水道計画（案）の縦覧を、都市計画法に基づいて、昭和四十八年七月十七日から三十日までの二週間行ないましたが、七月三十一日に、向日市都市計画審議会で答申を得ました。このことにより、今後、京都府の都市計画審議会の議を得て、正式決定されます。

この向日市公共下水道計画の目的は、公共下水道の早期整備により、勘城住民の生活環境と桂川などの公共用水域の汚濁した水質の回復をはかるものです。

市では、昭和四十九年度から事業予定をしていますが、事業の実施にあたり、住民のみなさんのご理解とご協力をくんたるようお願いします。